2022年度　第一学院高等学校高萩校　学校評価

１　教育理念・建学の想い

教育理念	建学の想い
１／１の教育（いちぶんのいち） 1人ひとりの生徒と向き合って、 1人ひとりの生徒の幸福を願って、 1人ひとりの生徒を「育む」 第一学院高等学校は創立から「生徒第一」「１／１の教育」の想いを大切に、生徒をプラス思考に変える独自の「プラスサイクル指導」をベースとした生徒一人ひとりの「“もっともっと自分を好きになる”自分づくり」をサポートし、「社会で活躍できる人づくり」に全力で取り組んでいます。	**常に「素直な心」** Be Honest Positive！ 様々な出来事に対し、自己成長のチャンスと素直な心で積極的に受け止める。 **「夢」を意識し、「夢」を持つ** Keep Your Dreams Alive！ 「夢」の実現に向けて、本校が「出帆」の場となる教育を推進します。 **達成実感・貢献実感** Try Your Best and Work for Others！ 一つひとつのことに懸命に取り組むことによって得られる達成実感は生徒を育てます。

２　当年度の重点目標

項　目	内　容
◎独自の意欲喚起教育 「プラスサイクル指導」の深化	「デジタル自分未来史ファイル（通称 D−FILE）の全学年実施と「成長実感発表会」での自身の成長軌跡の発露による成長促進。
◎独自のキャリア教育 「コミュニティ共育」の推進・深化	地域との連携含め「独自のプロジェクト型学習=PBL（Project Based Learning）＋SEL(Social Emotional Learning)の確立と展開・拡大による地域貢献、進路発見。
◎ICTを活用した教科学習による学習意欲の向上	従来の集団一斉対面授業中心からICT活用の「独自の個別最適化・自立型学習(マイプラ)」を中心に授業特性【知識定着型対面授業/アクティブラーニング型追究・活用型授業〔ライブ配信型・対面型〕】の組み合わせによる「学習意欲の向上・学力の定着」を図る。

３　独自の教育プログラムによる「プラスサイクル思考」と「他喜力発揮」の実践

2022年度においては、前年に引き続き、独自の意欲喚起教育「プラスサイクル指導」「コミュニティ共育」の更なる深化への取り組みに加え、価値観が多様化し刻々と変化していく社会の中で、生徒が主体的に課題を見つけ、解決していく能力を身につけるため、第一学院共通の「独自の個別最適化・自立型学習法 マイプラ（マイ・プラスサイクル学習法，マイ・プラスサイクル思考，マイ・プラン，マイ・プラットフォームの総称)」に取り組みました。生徒一人ひとりに合った学びで理解を深める指導を行うことで、社会で必要となる力の定着を図っています。また、ICTを活用した独自の指導プログラムとして、先にも述べた「独自の個別最適化・自立型学習(マイプラ)」や対面授業(知識定着)、ライブ配信型授業(アクティブラーニング、追及・活用)を通して学習意欲の向上と学力の定着に取り組んでいます。生徒が日々の生活で感じた個々の「成長実感」を大切にし、その「成長実感」を自信に変えてさらなるチャレンジができるよう、生徒・保護者・学校一体となった取り組み(「デジタル自分未来史ファイル（D-FILE ）」、「成長実感発表会」を昨年度に引き続き行っております。また、教職員においても、自分自身と向き合いプラス思考で自分を意欲喚起する力を身につけられるよう教職員用成長度実践表を用い教育の質の確保、教職員（フェロー）の相互支援体制により、生徒の成長を支援する指導体制をとっております。

・自分のことをうまく表現できない　→　成長実感発表会で発表した時、みんなからの拍手で自信がつき、自身の成長を実感できた！
・人と関わることが苦手だ　→　ピアサポート活動を通じて、コミュニケーション能力が身についた！
　　ボランティア活動を通じて、他者の喜ぶ姿を見て達成実感が味わえた！
・学校に行くことを考えると緊張していた　→　学校に通えるようなった！
・勉強は苦手だった　→　検定にチャレンジする中で、学ぶ楽しさを知った！
・未来の自分が想像できなかった　→　学校生活を通して将来の自分を描けるようになり、学習に取り組むようになった！
などの生徒の声より、個々の「成長実感」(変化・成長）を、本人だけでなく周囲の友人・保護者・教職員（フェロー）も実感し一緒に分かち合うことで、本人のさらなる成長のエネルギーに換えています。

①　「デジタル自分未来史ファイル（D-FILE ）」
今までは目に見えなかった「成長の実感と実績」を、第一学院では「可視化」できるようにしています。記録には第一学院生専用の「デジタル自分未来史ファイル（D-FILE ）」(第一学院オリジナル教材の「成長度MAP®アプリ」と「e-ポートフォリオ」)を活用しており、学校生活の中で蓄積される一人ひとりの記録を振り返れば、自分の良さや頑張りに気づき、さらなる成長につなげています。
「成長度MAP®アプリ」は生徒の成長の記録となる、第一学院のオリジナル教材で、生活面や学習面での自分の「今」をアプリに記録し“見える化”することで、本人はもちろん友人や保護者も生徒本人の成長を「実感」(知る・感じる)ことができ、その成長を共有することで、飛躍的な成長に繋げています。
また、「e-ポートフォリオ」では、学習の記録や振り返り、課外活動での成果物などをデータで記録、蓄積し、その成長の「実績」は一人ひとりの成長の実績と経過が見える”自分の作品集”「ポートフォリオ」として学びや活動の証明となっています。

②　「成長実感発表会」
第一学院では、生徒が日々の生活で感じる「成長実感」を大切にし、その「成長実感」を自信に変えてさらなるチャレンジができるよう、生徒・保護者・学校一体となった取り組みを行っています。その取り組みの一つが「成長実感発表会」です。発表のテーマやスタイルは、キャンパス・個人によってさまざまです。自分が学校生活で取り組んだこと、力を入れたことをテーマに設定し、プレゼンテーションや資料展示など自分で選択した方法で年に２回、学びの成果を発表します。発表会当日はキャンパスの友人や教職員（フェロー）はもちろん、保護者や出身校の恩師、地域の方々にもご参加いただいています。一人ひとりの発信、そして周りの方々からのフィードバックにより、自己の成長を感じ、さらなる成長につなげています。

③「独自の個別最適化・自立型学習法 マイプラ（マイ・プラスサイクル学習法，マイ・プラスサイクル思考，マイ・プラン，マイ・プラットフォームの総称)」
学習の理解度や将来の目標に合わせ、自分のレベルに合った内容・最適な空間を選択し、一人一人に最適化された学習を行っております。教職員（フェロー）と相談しながら自分だけの目標設定と定期的な到達度の確認により達成感が続き、苦手部分を克服する、得意な分野をさらに伸ばすなど、プラスの循環が生まれます。自分のレベルに合わせた学習計画を作成。進捗状況の確認を行いながら、「PLAN（目標・計画を立てる)」「DO（学ぶ)」「CHECK（先生との進捗確認)」「ACT（到達度振り返り)」の学びのPDCAサイクルを回します。時間割は成長に合わせて変更でき、一人ひとりの「学びの計画」であり、なりたい自分に向かって、「自分らしく生きる力」を身に付けます。

4　本年度の取組内容及び自己評価

【自己評価】S：実践できた　A：概ね実践できた　B：一部実践できなかった　C：実践できなかった

目指すべき生徒像	「プラスサイクル思考」と「他喜力発揮」の実践					自己評価
	指導・支援の種別		評価の観点	教育内容	評価項目	
「いつでも、何事にも、前向きにチャレンジする『プラス思考の自分』づくり」ができる生徒を育てる	第一学院独自の指導プログラム	生徒指導	プラスサイクル指導	実践度表	自分自身と向き合いプラス思考で自分を意欲喚起する力を身につけられるよう教職員用成長度実践表を用い成長を支援・指導することができている。	A
				ピアサポート活動	同じような悩みや課題を持つ生徒が繋がり、支え合う活動を支援・指導することができている。	A
				セルフケア講座	心を健康に保つためのセルフケア講座を実施し、生徒自らストレス・ケアできるよう知識や情報を身につける指導・支援を行っている。	A
				コミュニケーション講座	自分のことも、周りのことも認め、社会で活躍できる良いコミュニケーションをとれる力の育成・支援ができている。	S
				成長実感発表会	成長実感発表会を発露として生徒の成長機会を設定し、成長実感を促進している。	S
				成長度 MAP	生活面や学習面での自分の「今」を記録、可視化し、プラス思考で自分を意欲喚起する力を身につけられるよう生徒用成長度 MAP を用い成長を支援・指導することができている。	A
				ボランティア活動	ボランティア活動を中心としたコミュニティ共育を実践できている。	A
			コミュニティー共育	ジョブシャドウイング	進路ガイダンスやジョブシャドウイングにより、生徒の職業観や勤労観を育むキャリア教育に取り組めている。	A
				夢授業（しごと講話）	地域と繋がりのある方々から、仕事や働くことの意義を学ぶ「しごと講話」授業を行いキャリア教育に取り組めている。	A
				地域連携活動	地域活動（イベントなども含む）等に取り組み、連携を図っている。	A
				すらら	中学校の学習内容から高等学校の基礎学習内容まで学べる AI 学習システム「すらら」を使用し、基礎学力定着に繋がる指導・支援ができている。	A
		学習指導	個別最適化・自立型学習の実践	個別最適化･自立型学習法 マイプラ	第一学院共通の個別最適化・自立型学習法 マイプラ（マイ・プラスサイクル学習法，マイ・プラスサイクル思考，マイ・プラン，マイ・プラットフォームの総称）を通し、生徒一人ひとりに合った学びで理解を深める指導を行っている。	A
				TERRACE	「言葉の力」を育むプログラム TERRACE を使い、「読解力」「思考力」を身につけさせる指導ができている。	B
				高校基礎講座	ライブ配信授業と教室での対面授業のそれぞれの利点を活かし基礎学力の定着を図る指導・支援ができている。	A
				大学受験講座	生徒個々の理解度に合わせ、個別最適な学習環境を提供する Web 映像配信授業「ウィングネット」を使用し難関大学受験にも対応した学習指導・支援ができている。	A
				総合型選抜対策講座	進路を起点に日々の学習活動と PBL×SEL（プロジェクト型学習×社会情動学習）の相乗的な課題解決型学習の指導・支援ができている。	A
				全国ネットワーク型配信授業	生徒個々の進路に合わせ、全国同時配信型授業を活用し学習指導・支援ができている。	A
				プロジェクト型学習（PBL×SEL）	プロジェクト型学習（PBL）と社会性と情動の学習：Social Emotional Learning（SEL）の実践を通じ、自ら考え、問いかけ、課題を発見し、協働・解決する力を養う指導・支援ができている。	A
				e-ポートフォリオ	学びの記録や振り返り、課外活動での成果物などをデータ（デジタル自分未来史ファイル：D-FILE)で記録し、生徒の成長実績と経過を可視化し、ポートフォリオとして、学びや活動を証明し、進路につながる指導・支援ができている。	A
				他喜力	相手の立場に立って行動することの大切さに気づかせる指導を実践している。	S
		生徒指導	ＩＣＴ教育	デジタル自分未来史ファイル	デジタル自分未来史ファイル(D-FILE)による生徒の成長実感教育を推進している。	A
				ICT の利活用	ＩＣＴの特性を活かした個別最適化・自立型学習を通じて、生徒の主体的、意欲的な学習を推進している。	A

	第一学院独自の指導プログラム	進路指導	進路指導	生徒主体の進路指導	生徒、保護者に進路に関する必要な情報をわかりやすく提供し、生徒意思を尊重した進路指導を実践している。	A
					進路ガイダンスやジョブシャドウイングにより、生徒の職業観や勤労観を育むキャリア教育に取り組んでいる。	A
					1 年次から 3 年間の積み上げ型の進路指導が確立できている。	S
				二者面談・三者面談	生徒、保護者との面談を行い、意思疎通をはかりながら進路指導を実践している。	S
				いじめ対策	いじめ等が起こらない環境づくりを行い、問題発生時には組織的に対応できる仕組みを構築している。	A
		生徒指導	生徒指導	情報モラル教育	スマートフォンを中心とした情報機器の正しい使い方やＳＮＳ利用などのネットモラルについて指導している。	A
				生活指導	マナーや身だしなみ、言葉遣い、挨拶等の指導を実践している。	S
				保護者連携	生徒や保護者と電話や第一学院専用ポータルサイトのメッセージ活用などで連絡を取り合い、アンケート等も実施して常時連携を図っている。	S
		保護者連携	保護者連携		生徒の意欲喚起に重点をおいた面接指導を推進している	S
	教育課程（通信制課程）に基づく学習指導	学習指導	面接指導	スクーリング	多様な生徒実態に応じた柔軟な面接指導を行っている。	A
					わかりやすい授業実践を心がけ、基礎学力をしっかり定着させる指導を行っている。	A
					教科科目の狙いに応じたメディア教材を適切に活用している。	A
					生徒の意欲喚起に重点をおいた面接指導を推進している	A
					わかりやすい授業実践を心がけ、基礎学力をしっかり定着させる指導を行っている。	A
					教員自らの指導力を高める為の教材研究や指導方法の改善、自己啓発（新たな学び）に努めている。	A
					教科の狙いに応じたメディア教材を適切に活用している。	A
			添削指導	添削指導	生徒の基礎学力向上と学習意欲の向上につながる添削指導を行っている。	A
					生徒が主体的かつ計画的に学習できるよう支援を行っている。	A
				単位認定試験	教育課程に沿った高校生としての基礎学力定着に繋がる指導・支援ができている。	A
			単位認定	キャンパス指導	教員自らの指導力を高める為の指導・支援方法の改善、自己啓発（新たな学び）に努めている。	A
	校務	自己啓発・改善	プラスサイクル指導	生徒対応時間の創出	組織的に効率的な校務遂行方法を工夫し、教職員の働き方の改善に努め、教員自身の新たな学びの時間創出と、生徒と向き合う時間の創出している。	A